

国立がん研究センター

東 病 院



腫瘍内科長

向原 徹

(むこうはら とおる) 医師

1997年大阪市立大学医学部卒業。東病院化学療法科勤務、神戸大学医学部附属病院腫瘍センター特命准教授、通院治療室長などを経て、2017年より現職。日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医。

個別化治療が進む

「乳がんの薬物療法」

～さまざまなお悩みは

LIFE 支援センターへ～

「サブタイプ」「再発リスク」「本人の希望」により薬物療法を選択

乳がんは比較的早期の段階から微細な転移が起こり、全身病へと移行しやすいと考えられています。そのため、たとえ目に見えた転移がなく腫瘍が小さくても、ほとんどの患者さんに「手術」「薬物療法」「放射線療法」を組み合わせた「集学的治療」を行い、治癒率を上げる努力をしています。

ひとくくりに「乳がん」と言っても、実は、がん細胞の性質や悪性度によって、さまざまな種類があります。少し専門的になりますが、乳がんの性質による分け方を「サブタイプ分類」と呼びます。

サブタイプ分類は、腫瘍において「ホルモン受容体が発現しているか」「『HER2』と呼ばれるタンパク質ががん細胞の表面に過剰に発現しているか」「がん細胞の増殖能力を示す指標『Ki67』の値は高いか」によって、乳がんを5種類に分ける方法です。※裏面図「乳がんのサブタイプ分類と薬物療法の内容」参照

サブタイプによって、病気の勢いや薬に対する反応性が異なります。乳がんの治療ではこのサブタイプに加えて、「再発リスク」や「患者さん本人の希望」なども考慮し、一人ひとりに合わせて適切な治療法を選択します。

多様な薬剤から適切なものを選択

薬物療法の目的は、主に

1. 手術前または後に行うことで再発リスクを減らすこと（周術期薬物療法）
2. 治癒が難しい進行がんや再発がんに行うことで生活の質（quality of life, QOL）を保ちながらできるだけ長く過ごせるようにすること（緩和的薬物療法）——の2つです。そのうち周術期薬物療法においては、サブタイプ分類と再発リスクに応じて「ホルモン療法」「抗HER2療法」「化学療法（いわゆる抗がん剤）」「分子標的薬」の4種類が使い分けられます。詳しい内容はこちら→



治療に伴うさまざまな悩みは LIFE 支援でサポート

東病院では 2018 年、LIFE 支援センター（旧：レディースセンター）を開設し、AYA 看護外来（本館 外来 2 階 6 番）を窓口として、さまざまな相談に対応しています。LIFE 支援センターはこちら→ 

例えば、「私の乳がんは遺伝に関係するのかしら？」と心配されている方も多いのではないのでしょうか。遺伝性乳がんは、乳がん全体の約 5～10%を占めています。遺伝学的検査によって遺伝性とわかった場合には、ハリウッド女優のアンジェリーナ・ジョリーさんのように、発症前に卵巣・卵管や乳房を切除する手術を受ける方法もあります。ご家族にがん患者が多くいるなど遺伝が心配な方は、担当医や、AYA 看護外来へご相談ください。

遺伝性がんのこと以外にも、妊孕性（にんようせい：妊娠する力）の相談・対応、脱毛など治療に伴うアピアランス（外見の変化）相談・支援、リンパ浮腫を含むリハビリテーションの必要性評価と対応、治療と仕事や育児との両立、薬の副作用への対処法など、内容は多岐に渡ります。

「子どもに病気のことをどう伝えたらよいのか」といった悩みについても、AYA 看護外来の看護師と小児腫瘍科の医師等が連携してサポートします。経済的な問題や就労に関することなども、一人で悩まず AYA 看護外来を活用してください。（サポーターケアセンター／がん相談支援センターの専門スタッフへとつなげます）サポーターケアセンター／がん相談支援センターはこちら→ 

薬物療法については、自分に合った方法を選択し、納得して治療に臨んでいただきたいと思います。私たち腫瘍内科の医師は、科学的に有効かつ安全とされている治療法の中から最適なものを提案しますが、不安に思ったり判断に迷ったりしたときは、遠慮なく担当医や看護師などに伝えてください。

患者さんもチーム医療の重要なメンバーです。一人ひとりが生活の質を保ちながら治療を受けられるように、チーム全体でサポートします。ホルモン療法や転移・再発した場合の治療など、乳がんの治療は長期間に渡ることがあります。闘病に伴う悩みや不安は、担当医や外来の看護師、LIFE 支援センターの相談窓口などに気軽に相談し、その都度解消するようにしてください。治療中でも「あなたらしさ」を大切にしたい生活を続けていただきたいと思います。

東病院 LIFE 支援センターの役割

LIFE 支援センターは、患者さんが「その人らしい生活」を送れるよう、最適な医療とサポートを提供するために開設されました。病院棟 2 階の「AYA 看護外来」が総合窓口となり、さまざまな相談に多職種で対応しています。AYA 看護外来のご案内はこちら→ 

 個々の患者さんの症状により記載にない薬を用いる場合もあります

乳がんのサブタイプ分類と薬物療法の内容

サブタイプ分類	ホルモン受容体	HER2	Ki67	選択される薬物療法
ルミナル A 型	陽性	陰性	低	ホルモン（内分泌）療法 +/- 内服化学療法
ルミナル B 型 (HER2 陰性)	陽性	陰性	高	ホルモン療法 + 点滴化学療法 +/- CDK4/6 阻害薬 +/- 内服化学療法
ルミナル B 型 (HER2 陽性)	陽性	陽性	—	点滴化学療法 + 抗 HER2 療法 + ホルモン療法
HER2 型	陰性	陽性	—	点滴化学療法 + 抗 HER2 療法
トリプルネガティブ	陰性	陰性	—	点滴化学療法 +/- 免疫チェックポイント阻害薬